

# カリキュラム開発研究 研究構想図

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
町田市立町田第三小学校 主任教諭 宇田 洸希

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>【社会背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低年齢層（9歳まで）の<br/>自分専用スマートフォン所持率の増加<br/>(令和6年度 青少年のインターネット利用環境実態調査)</li> <li>・小学生のスマートフォン所持率の上昇<br/>(令和6年度 青少年のインターネット利用環境実態調査)</li> </ul> <p><b>【今日的な教育課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな心の育成（教育振興基本計画）</li> <li>・情報活用能力への「情報モラル」の明示<br/>(小学校学習指導要領 総則)</li> <li>・他者を思いやり、自己を確立しながら<br/>多様な人々が生きる社会の実現<br/>(東京都教育施策大綱)</li> <li>・SNSにおけるいじめ対策の重要性<br/>(いじめの重体化を防ぐための留意事項集)</li> </ul> | <p><b>【東京都教育委員会の教育目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間</li> <li>・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間</li> <li>・自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間</li> </ul> <p><b>【東京都教育ビジョン（第5次）】</b></p> <p><b>【柱1】 自ら未来を切り拓く力の育成</b><br/>⇒デジタルトランスフォーメーション（DX）時代を<br/>生き抜く人材の育成<br/>→情報モラル教育の着実な推進<br/>・「GIGAワークブックとうきょう」<br/>の活用</p> | <p><b>【東京都の実態】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小学校第4学年から第6学年までの児童49.8%がスマートフォンを所持しており、令和5年度と比較すると6.8ポイント上昇している。</li> <li>2 スマートフォンの利用目的として最も多いのがSNS利用であり、種別ではコミュニケーションアプリが最も多い。</li> <li>3 SNSが原因で友達とケンカになった経験のある小学生児童が増加している。</li> <li>4 インターネットやスマートフォンについて、保護者が東京都や学校に求める対策で最も多いのが「危険性や適切な利用方法について教える授業」である。</li> </ol> <p>出典：<br/>1,2,4 家庭における青少年のスマートフォン等の利用等に関する調査報告書（東京都生活文化スポーツ局, 2025）<br/>3 令和6年度「児童・生徒のインターネット利用状況調査」（東京都 教育庁, 2025）</p> |
|--|--|--|

|  |
|--|
| <p><b>【育てたい児童・生徒像】</b></p> <p>思いやりの心もち、情報社会において安全に暮らせる児童</p> |
|--|

|   |
|---|
| <p><b>【先行研究】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①東京都内において、スマートフォンの所持率やSNSの利用率が増加していることは明らかである。（令和6年度 青少年のインターネット利用環境実態調査）</li> <li>②スマートフォンやSNSとの向き合い方について、対処方法を伝えるコンテンツは多く開発されている。</li> <li>③道徳科と特別活動の効果的な往還により、道徳科で育んだ心が特別活動における具体的な活動場面に生かされる。また、特別活動における多様な実践や体験活動が道徳科の授業で「補充・深化・統合」することによって、道徳的価値への自覚が深まる。<br/>『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』（教師用指導資料）（文部科学省 国立教育政策研究所, 2018）</li> </ol> |
|---|

|   |
|---|
| <p><b>【研究主題（案）】</b></p> <p>思いやりの心もち、情報を安全に活用できる児童の育成<br/>—道徳科と特別活動とを往還させた指導の工夫—</p> |
|---|

|   |
|---|
| <p><b>【主題設定の理由】</b></p> <p>「令和6年度『児童・生徒のインターネット利用状況調査』調査報告書」（東京都教育庁, 2025）では、中学生におけるコミュニケーションアプリの使用率及びインターネットに関するトラブルの発生率が小学生よりも高いことが示されている。このことから、小学校段階から児童への教育的アプローチが必要であると考えた。</p> <p>SNSに関するトラブルが発生する原因の一つに、「相手の気持ちや立場を自分のこととして推し量ることができない。」ことがあると考えた。相手の立場を考えたり、相手の気持ちを想像したりすることを通し、自分自身が相手に対してどのようにすることが相手のためになるのかについて考えを深めることで、未然防止につながると考えた。</p> <p><b>【副主題設定の理由】</b></p> <p>小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編(平成29年7月)にある「特別活動等の多様な実践活動を生かす工夫」及び小学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年7月)にある「道徳科との関連」に着目した。道徳科での学びが特別活動における具体的な場面の中で生かされ、特別活動での具体的な実践が道徳科の時間に生かされるよう、往還を意識した指導の工夫を行い、研究主題に迫る研究を進めていく。</p> |
|---|

|  |
|--|
| <p><b>【研究仮説】</b></p> <p>道徳科及び特別活動の時間において、「なぜ起きる？なぜ起こす？解決シート」を活用することで、自分のこととして考え、それぞれの時間の学びを生かしながら、情報を安全に活用しようとする意欲を高めることができるだろう。</p> |
|--|

|    | 目的   | 資料・方法（実施予定月）   |
|----|--|--|
| 基礎 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育の具体的な内容と指導方針を整理する。</li> <li>・「特別の教科 道徳」におけるモラル教育の位置付けを整理する。</li> <li>・「特別活動」におけるモラル教育の位置付けを整理する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領</li> <li>・SNS東京ノート</li> <li>・GIGAワークブックとうきょう</li> <li>・各教科書</li> <li>・各種実践事例（各企業発信のモラル教育例）</li> </ul> |
| 調査 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究対象校児童とSNSとのかかわり方の実態を把握する。</li> <li>・SNSを発端としたトラブル例を把握する。</li> <li>・SNSにまつわる生徒指導対応の実態を把握する。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究対象校児童及び教員へのアンケート調査</li> <li>※教員向け調査（8月） 児童向け調査（10月）</li> </ul>   |
| 開発 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究で明らかになった課題を解消する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ起きる？なぜ起こす？解決シート」（開発物）作成（10月）</li> </ul>   |
| 検証 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科と特別活動を往還させた学習過程の作成する</li> <li>・「なぜ起きる？なぜ起こす？解決シート」（開発物）効果検証</li> <li>・検証結果を踏まえ、改善する。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習過程に基づく検証授業の実施（11月）</li> <li>・検証授業を通して明らかになった課題を改善するとともに、普及・啓発に向けた教員向け解説ガイドブックを作成する。（1月）</li> </ul>         |

# 研究主題「思いやりの心もち、情報を安全に活用できる児童の育成

## — 道徳科と特別活動とを往還させた指導の工夫 —

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
町田市立町田第三小学校 主任教諭 宇田 洸希

### 第1 研究のねらい

「教育の情報化に関する手引き」（文部科学省, 2020）では、スマートフォンやソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）が急速に普及し、その利用も低年齢化する中、これらの利用を巡るトラブルの増加が示されている。

「令和6年度『児童・生徒のインターネット利用状況調査』調査報告書」（東京都教育庁, 2025）の結果からは、中学生におけるコミュニケーションアプリの使用率及びインターネットに関するトラブルの発生率が小学生よりも高いことが明らかになっている。このことから、中学校へ進学する前の小学校段階から、児童への教育的アプローチが必要であると考えられる。

SNSに関するトラブルには、「悪口」、「個人情報書き込み」及び「SNS内グループにおいて無視をする行為や仲間外れにする行為」等が問題として挙げられる。これらのトラブルが発生する原因の一つには、「相手の気持ちや立場を自分のこととして押し量ることができない。」ことがあると考える。相手の立場を考えたり、相手の気持ちを想像したりすることを通し、自分自身が相手に対してどのようにすることが相手のためになるのかについて考えを深めることで、上に述べたSNSに関するトラブルの未然防止につながると考えた。

小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）には情報モラルの具体として、他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に活用できること等が示されている。

このことを踏まえ、児童が情報の利便性や危険性を理解し、情報を安全に活用できるように学習活動を計画していくことが必要であると考えた。

そこで、本研究では、小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編（平成29年7月）にある「特別活動等の多様な実践活動を生かす工夫」及び小学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）にある「道徳科との関連」に着目し、「なぜ起きる？なぜ起こす？解決シート」（開発物）を活用した研究に取り組む。また道徳科での学びが特別活動における具体的な場面の中で生かされ、特別活動での具体的な実践が道徳科の時間に生かされるよう、往還を意識した指導の工夫を行い、研究主題に迫る研究を進めていく。

### 第2 研究仮説

道徳科及び特別活動の時間において、「なぜ起きる？なぜ起こす？解決シート」を活用することで、自分のこととして考え、それぞれの時間の学びを生かしながら、情報を安全に活用しようとする意欲を高めることができるだろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

情報を安全に活用するための教育として、情報モラルの指導と道徳科との関連について扱っ

た先行研究からは、情報モラルの育成は道德教育で育まれる道德性と関連付けて指導していくことが効果的であることが分かっている。

また、『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』(教師用指導資料) (文部科学省 国立教育政策研究所, 2018)には、道德科で育んだ心が、特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、児童は様々な道德的実践を重ねることや特別活動における多様な実践や体験活動を道德科の授業で「補い、深め、まとめる」ことで、児童の道德的価値への自覚が更に深まることが示されている。

これらのことから、児童が情報の利便性や危険性を理解し、情報を安全に活用できるようにするためには、道德科と特別活動とを効果的に往還させる必要性があると捉えた。

## 2 調査研究

### (1) SNSに関する指導についての課題と今後重視したい内容について[教員向け]

令和7年8月、都内公立小学校1校の教員(23人)を対象に、SNSに関する指導についての課題を把握することを目的にした調査をWEBアンケートにて実施した。「教員向け調査1」(図1)では、学校においてSNS型メッセージアプリに関する指導を行う際の課題として、「家庭との連携」や「トラブルが起きた時の対処方法」を挙げている教員が多いことが分かった。

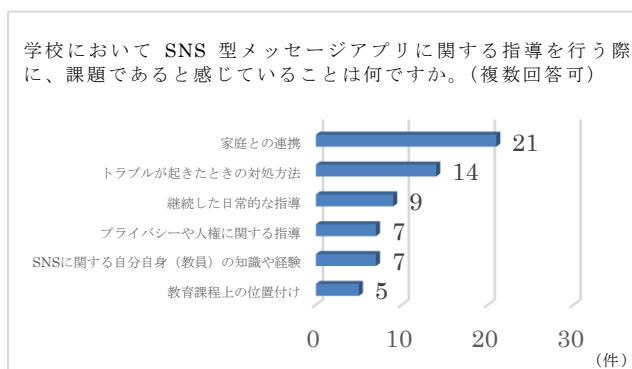


図1 教員向け調査1

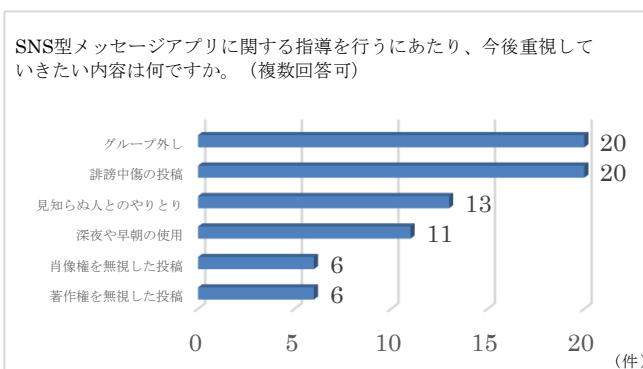


図2 教員向け調査2

また、「教員向け調査2」(図2)では、SNS型メッセージアプリに関する指導を行うにあたり、今後重視していきたい内容について、「グループ外し」や「誹謗中傷への投稿」が多い結果となった。

これらの結果を踏まえ、家庭との連携を意識したトラブルに対する対処方法や「グループ外し」や「誹謗中傷の投稿」など、教員の問題意識が高いテーマを取り入れながら、研究を進めていくこととした。

### (2) コミュニケーションアプリ使用経験の有無と使用上で留意している事項に関する意識調査結果について[児童向け]

令和7年10月、都内公立小学校1校の第6学年児童(60人)を対象に、コミュニケーションアプリの使用経験と、使用する上で留意している内容について調査した。コミュニケーションアプリの使用は、約70%の児童が普段から使用していることが分かった。また、留意している内容についての調査から以下の記述が得られた(表1)。

表 1 児童向け調査

| 留意している内容   |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪口の投稿など、いじめにつながることをしないこと</li> <li>・相手に正しく伝わるように言葉に気を付けて投稿すること</li> <li>・個人情報の投稿に関すること</li> <li>・使用時間や使用頻度に関すること</li> <li>・グループづくりの在り方に関すること</li> </ul> |

※多い順に掲載

本調査を踏まえ、本研究を進めていくうえで、以下の2点に留意して取り組んでいく。

- 児童の使用状況を踏まえ、メッセージ型アプリを使用していない児童にとっても、自分のこととして考えられるよう配慮すること
- 児童が記述したメッセージ型アプリを使用する際に留意している内容は、学習を進める中で具体的な例として提示し、課題の状況や問題点を把握しやすくすること

### 3 開発研究

#### (1) 道徳科と特別活動との往還を意識した学習の構想

道徳科で育まれた道徳性が、特別活動における具体的な活動の中で生かされ、道徳的な実践が重ねられていく。道徳の時間においては、特別活動における多様な実践や体験活動の中で、道徳性と向き合う中で、道徳的価値への自覚を更に深められていく。このような道徳科と特別活動との往還を意識して、学習を構想した(図3)。

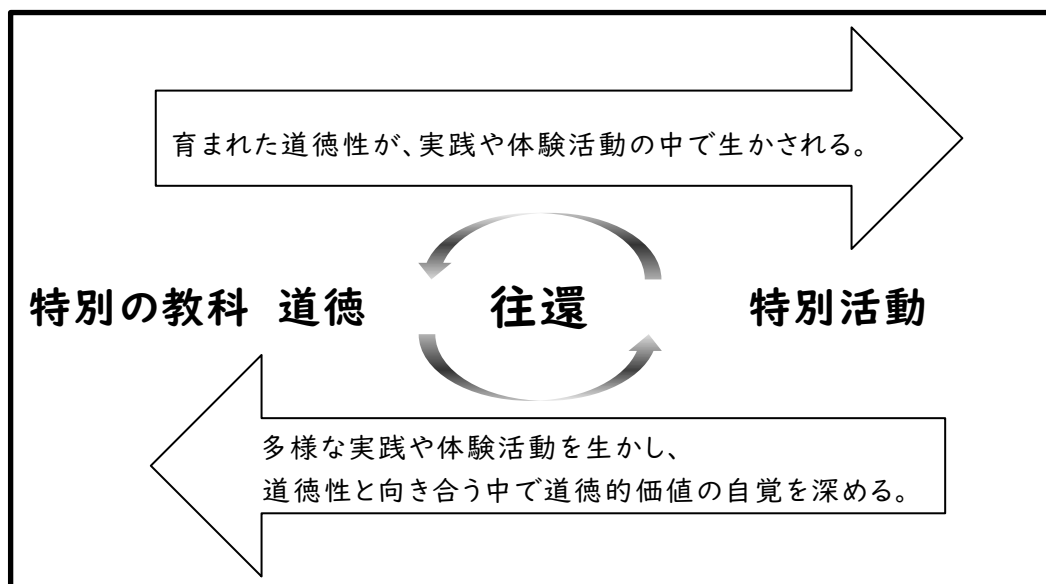


図 3 往還を意識した学習の構想

#### (2) 成果物及び活用について

児童が授業で取り扱うテーマについて、どのような状況であれば起きるかを想定し、課題を自分のこととして考えることができるよう「なぜ起きる?なぜ起こす?解決シート」(以下「開発シート」という。)を開発した(図4)。具体的な内容は以下のとおりである。

The form is titled '開発シート' (Development Sheet). At the top, it asks for 'テーマ:' (Theme), '6年( )組( )番' (6th year, group, number), and '名前( )' (Name). To the right is a box for '準備があれば 活用がない' (If prepared, not used) and '準備がなくても 活用がない' (Even if not prepared, not used). Below are two main sections: '① どのような理由から、起きてしまうのか?' (What reasons lead to this?) and '② どうすればよいか?' (How can it be solved?). Each section has a large arrow pointing to a box for the answer. At the bottom, there is a section for '③ 今日の学習について考えたこと・感じたこと' (Thoughts/feelings about today's learning).

図 4 「開発シート」

- ア 課題について、今の自分の認識を確認し、座標軸上に印を付ける（図5）。
- イ 児童同士の対話を通して、課題に対する認識の違いを知る（図5）。
- ウ その課題が発生する理由を予想して記入し、共有する（図6）。
- エ 理由に対して実現可能な解決策を考え、記入する（図6）。

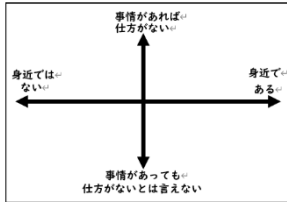


図5 「開発シート」抜粋1

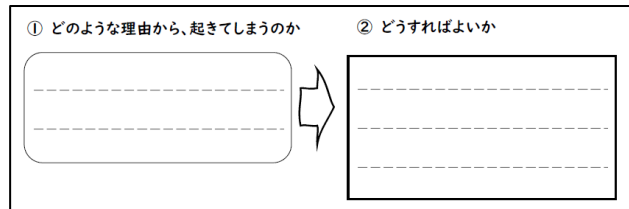


図6 「開発シート」抜粋2

アでは、自分と他者との認識の違いを分かりやすくし、対話を活発に促すために座標上に印を付ける。座標上に表現することで、自身の認識を正確に表すことができると考えた。教員は児童が座標上に印を付けた後、その理由を問うことにより、思考の深まりや整理を促すようにする。

イでは、自分の付けた印の理由を伝え合うことを通して、互いの認識の違いについて知る。また、SNSに関する課題の発生状況を具体的に考え、共有することにより、自分のこととして捉えられるようにする。また、教員は対話が滞っているグループに対し、ファシリテーションを行い、対話の充実を図る。

ウでは、発生した理由を個人で考察して記入する時間を設け、自分の考えをまとめた後にグループで話す時間を設定する。互いの理由を伝え合う中で、問題の発生には様々な理由があることについて話し合いを通して理解を深めていく。

エでは、ウで考えた理由に対する実現可能な解決策を考える。教員は一人一人の児童の記述内容を把握し、児童の実態に即した解決となっているかを確認しながら、必要に応じて助言を行うようにする。

#### 4 検証授業

##### (1) 授業の概要

都内公立小学校第6学年児童（2学級 計60人）を対象に、全4時間の授業を実施した。

|             | ○本時のねらい・使用した教材等   |
|-------------|---|
| 道徳科<br>第1時  | ○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。<br>・「最後のおくり物」（出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省）         |
| 特別活動<br>第2時 | ○コミュニケーションアプリにおける他者が嫌がる内容の投稿について、発生の状況や原因を児童が捉え、トラブルの未然防止に向けた方策を考えることができるようにする。<br>・開発シート |
| 道徳科<br>第3時  | ○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の状況を押し量り相手の立場に立って考えようとする態度を育てる。<br>・「あなたはどうか考える？」（出典：新編 新しい道徳6 東京書籍）   |
| 特別活動<br>第4時 | ○コミュニケーションアプリにおける課題のうち、考えを深めたいものを選択し、発生の状況や原因について考え、トラブルの未然防止に向けた行動目標を                    |

|  |                               |
|--|-------------------------------|
|  | 設定し、意思決定ができるようにする。<br>・ 開発シート |
|--|-------------------------------|

## (2) 児童の変容

### ア 児童Aの変容

検証授業を通して児童の記述変容の分析を行った。児童A（自分専用のスマートフォンを所持・SNSの利用あり）の変容については、下のとおりである（表2）。

表2 児童Aの変容

|             |  |
|-------------|--|
| 事前調査        | 【コミュニケーションアプリを使用する上で気を付けていること】<br>直接会っていないので、相手がどのような気持ちで書いているのかが分からない。だから私は、相手が嫌な気持ちにならないよう、使用する時に言葉遣いに気を付けている。 |
| 第1時<br>道徳科  | 【「親切」について】<br>優しくしたり、されたりすると、気持ちが自然と温かくなる。   |
| 第2時<br>特別活動 | 【「悪口の投稿」について】<br>悪口はなくならないと思う。<br>悪口を言う人は、ずっとこの先も言うと思う。  |
| 第3時<br>道徳科  | 【「思いやり」について】<br>様々な相手のことを思って行動することが「思いやり」だと私は思った。  |
| 第4時<br>特別活動 | 【「グループ外し」について】<br>(これまでの経験から) やり返したら切りがないので、なぜそうしたのか理由を聞いた上で、納得のいく理由であればやり返さずやめればよいと思う。                          |
| 行動目標        | 人間関係は続くから、これからも相手を思う気持ちを大事にする。   |

児童Aは事前調査において、コミュニケーションアプリでのやり取りに注目し、相手を大切に意識から言葉遣いを気にしていることを挙げた。このことから、児童Aは既に相手の立場や思いを想像することはできていると捉えた。

一方で、事前調査からは児童Aが友達との関係（人間関係）についてどのように捉えているかを見取ることはできなかった。児童Aの記述を見ていくと、「思いやり」を広義的に捉える様子（第3時）や相手の状況を理解し、行動しようとする内容の記述があった（第4時）。

4時間の授業を通して、児童Aは、これからも様々な相手を思いやっていこうとする意欲が高まったことが行動目標から見て取れた。

### イ 学年全体の児童の変容

検証授業実施一週間後に、児童に対して日常生活におけるコミュニケーションアプリの使い方や、他者との関わりについての変容を問う調査を行った。調査結果からは、約半数の児童が、学習したことや考えたことを実際の生活に生かしたという結果が得られた。具体的には、「家族や友達と話すときや行動するときに、相手のことを考えることが増えた。」「(グループに誘わない事情があったので) その子に先に話してからグループをつくった。」という回答が得られた。前者については、コミュニケーションアプリに限定することなく、今回の学習が日々の生活に生かされた記述である。後者については、コミュニケーションアプリの

グループづくりについての記述である。これらの記述に関する内容は、検証授業の中で実際に話し合った内容であることから、検証授業の学びを生かしたことが考えられる。

#### ウ 学級担任への相談

検証授業実施後、学級担任へコミュニケーションアプリに関する相談が1件あった。コミュニケーションアプリを使用している友達のことを心配した内容であった。このことは相手を思いやる行為であり、まさに本研究が目指した方向の一つである。この児童の行動と本研究との関係性を見いだすことはできないが、何らかのきっかけになった可能性があると思えた。

### 第4 研究の成果

コミュニケーションアプリに関する課題を具体的に取り上げたことにより、児童が身近な問題として課題意識をもち、トラブルを未然に防ごうとする意欲が高まった。

また、開発シートを活用したことにより、児童は自分の考えを整理しながら課題を自分のこととして捉えることができた。そのため、課題に対する自分の考えをより深めていく姿が見られた。

### 第5 今後の課題

本研究の課題は、児童が往還を意識しながら学習に取り組めるようにするための教員の意図的な関わりである。

特別活動の時間における児童が思考する場面や考えを共有する場面では、道徳科での学びを想起させるような教師側の意図的な働きかけを行っていく必要がある。また、道徳科の時間における自己の生き方について考えを深める学習の中心となる振り返りの場面では、特別活動における道徳的な実践を生かし、道徳的価値の自覚を深める必要がある。

これらの課題を踏まえ、研究の改善を図ることを目的とし、成果物の使用時における教師の介入のポイントや往還のポイントを示した「成果物活用ガイド」を作成し、研究の普及・啓発を図る。